

■自分よりも弱い者を前に、
人は本性をあらわにする

修正： 2020.01.01

投稿： 2020.01.01



●自分よりも弱い者を前に、人は本性をあらわにする①

自慢話をしたり、傲慢な態度をとれるのも、
相手が自分よりも弱いからです。

自分よりも凄い人に自慢話できませんし、
自分よりも強い人に傲慢な態度はとれません。
何を言ってもイエスとしか答えない、と分かっているからこそ、
自慢話や傲慢な態度を堂々ととれるのです。

会社の経営状態が悪くなったとなれば、
社長や管理職のような上役が外部から呼ばれることも
珍しくありません。経営回復の目途が立たず、
「どうか、あなたにお願いしたい！」
と頭を下げられ依頼がきたとなれば、

「そうかそうか、いいだろう。俺が何とかしてやろう！」
と尊大な態度の一つや二つもとりたくなるものでしょう。そうして
「俺が来たからには、今までの古臭いやり方は捨て…」
と持論を展開する姿を見せられれば、

一同「またか…」と呆れ返るところであり、
経営陣と現場とで温度差が出るものです。

まだ実績がないにも関わらず、周囲から持ち上げられれば、
あたかも功労者のように錯覚してしまうものですが、
結果を期待されることと結果を感謝されることは別です。

ビッグマウスでまったく活躍できなかった野球選手、
会社を引き継いだ瞬間にいとまやすく経営を傾かせた2代目、
政権交代した途端に国力を疲弊させた政党、

何かと期待をかけられながらも口だけで終わってしまった、
という例は過去にも多々あります。これに対しては、
自分もそうならないよう反面教師としていかなければなりません。

(続)

//=====//

●自分よりも弱い者を前に、人は本性をあらわにする②

「これくらいなら、少々、

傲慢な態度をとっても、問題ないだろう…」

と考え、嬉々としてでかい態度をとってしまったこと、
ございませんでしょうか。

人は、他人の傲慢な態度を見れば、

例えその相手が自分にとって恩人であったとしても、

「あの傲慢な態度だけは許せない！」と、

センサーのごとく敏感に反応し嫌悪します。

その一方で、**自分のこととなると恐ろしく無頓着**です。

「こっちは上顧客だ。いつも高いサービスを利用してやってる。

これくらいでかい態度をとっても、文句は言えないだろう～」

と自分の立場と自分の態度を天秤にかけようとしています。

そして相手に対する「してあげたこと」を持ち出して、

「まあまあ、俺とお前の仲じゃないか！」と、

自分の態度については棚に上げようとするのが人間です。

その態度、案外、**見られていますよ。**

誰も何も言えないものですから、

気づいていないのは本人だけでしょうが、

どんなに実力があっても、傲慢な態度だけは見逃してはもらえません。実力がなくなったときに、傲慢な態度の報いが還ってくることになります。

「これくらい傲慢な態度をとっても大丈夫だろう…」

と思うことこそが、もうすでに傲慢そのものです。

ゆるキャラのふなっしーは、お辞儀をするとき、「お前、それ以上曲げると、腰折れるんじゃない？」というくらい、深く深くお辞儀をするそうです。

ただ単におもしろくて頭が良くて不気味(?)なだけでは、ゆるキャラ No.1 の座には輝けなかったことでしょう。

(続)

//=====//

●自分よりも弱い者を前に、人は本性をあらわにする③

人は、周囲の人の自分に対する反応を見て、自分が周囲より上なのか下なのかを決めています。つまり、**自分の態度**は、**周囲の自分に対する態度によって変わる**ということです。

〇〇部長、〇〇課長、と呼ばれペコペコされれば、誰もが、「ああ、俺はこいつらより上だ」と思い込むことでしょう。

「なんだその態度は、俺は客だぞ！」と、店員に対して横柄な態度をとれるのも、サービスする側(お店側)がお客様に対して丁寧に接してくれているからです。

「今の我々があるのもお客様のおかげです。

お客様第一のサービスをさせていただきます！」

と丁寧な対応を心がけられ、

「ぜひとも買って行ってください、よろしくお願ひします。

ありがとうございます、ありがとうございます！」

と頭まで下げられれば、

「なんだ、店員より客である俺の方が立場は上か」

と、たちまち勘違いしてしまうところです。

人間とは、**丁寧に接されれば接されるほど、**
付け上がってってしまうもののようです。当然、
そんな人と積極的に関わりたい人もおりません。

もしこれが**大事な取引先**だった場合は大変です。
先方に向いた際、相手側がお客様であるにも関わらず、
訪問している以上、お客様対応されるのはこちら側です。

「よくお越しくございました〇〇様、どうぞこちらです」
と接客対応されれば、「**ははは、来てやったぞ!**」と、
いつの間にか**立場と態度が逆転しがち**です。

相手の出方がどうであれ、
立場は「**させていただく側**」なのだから、
ここを履き違えてはいけません。

(続)

//=====//

●自分よりも弱い者を前に、人は本性をあらわにする④

〇〇課長、〇〇部長、〇〇社長、〇〇先生、〇〇教授
と、何かと肩書きを付けて名前が呼ばれています。

肩書きは立場の違いを表していることが多く、
肩書き付きで名前を呼ばれば呼ばれるほど、
自分の立場の上下を意識させられるものです。

初めて「〇〇部長」と呼ばれたときには、
「えっ、ああ、俺のことか！
いや～そんな、部長だなんて、ははは」
と恥ずかしがりながら謙遜するものの、

いつしか、部下に対して、
「お前らがスムーズに仕事できるのは誰のおかげだ？」と、
上下の違いを当たり前ものと感じるようになります。

周囲も、そうした肩書きや上下関係のやり取りを見て、
「ああ、この人はきっと偉い人なんだろうな…」
と何となく受け入れてしまうものです。

「ああ！あの〇〇会社の〇〇部長さんですか！」
とでも言われれば、会社の看板も後押しし、
どこぞの大物人物にでもなったように錯覚します。

「よーし、これだけ名実ともに充実すれば、
起業しても何とかやっていけるだろ！」と思い立ち、
会社の看板と肩書きを返上した瞬間、
ただの人であったと思い知らされます。

「〇〇社の営業の者です！」と言う会社の看板がなければ、
ボールペン1本、メモ帳1冊、
売ることすらできない現実を思い知らされるのです。

(完)

//=====//

Web サイト :

心を力学する ー原理・原則に基づく生き方を考えるー

著者 :

時無 和考(Tokinashi Kazutaka)